

つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業づくり(3年次)

～子どもが友だちの表現に「価値」が見出すことができるようにするための教師の働きかけを通して～

社会科における「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」について

社会科では、子どもが、出会った社会的事象を自分ごととして主体的に捉え、それに対する「はてな」から生まれた学習課題に対して「調べてみたい」「解決したい」という思いをもち、資料をもとに調べ学習をおこなう。そこでもった見方や考え方を友だちと楽しみながら交流することでよりよい考えを見出していく授業を「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」だと考えている。しかし、生活経験の差や社会事象への興味関心の度合いによって、学習課題に対するひとりひとりの考えには違いが生まれてくる。その違いこそが子どもが社会的事象を多面的・多角的に捉えるきっかけになる。子ども達は、話し合う中で自分と友だちの意見を比べながら、自分にはない違う側面や立場からの意見を吟味し、自分が納得できるかを考えていく。その中で見出されるよりよい考えとは、ものごとを多角的多面的に捉えた意見の中から、友だちに意見に学級の児童の多くが納得したものだともいえる。そして、納得するという事は、友だちの意見の価値に気づくということである。

子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするための教師の働きかけについてのべる。

1. 子どもを「共通の土台」に乗せるための働きかけ

○資料との出会わせ方を工夫し、比較できる場面を設定する。

子どもを共通の土台に乗せるためには、「はてな」が生まれてくるためのしかけが必要になる。はてなとは、子どもが「何かがおかしいよ」と思うことであり、そのためには条件の不足した資料の提示やいくつかの資料を比較する場面の設定などのしかけが必要になってくる。そうしたしかけが問題解決学習には、欠かせない条件だと考える。

3年生 友だちと自分の考えを比較できる場面を設定する。

3年生は、学校の消防設備の中から、学校の見取り図の中に自動火災報知設備の設置場所を予想させる。それぞれの児童が予想した場所を学校の見取り図の中にシールで貼らせ視覚的に捉えさせることにより、児童はそうすることで友だちの思考を知りたいという気持ちや設置する場所にも工夫がありそうだという思いが生まれてくると考えられる。そうした思いを引き出して、共通の土台に乗せていきたい。

4年生 複数の資料を比較させ、共通したものを見つけ出す場面を設定する。

4年生には、県内各所の野中兼山に関係がある神社の写真をいくつか提示する。子ども達は、それらをくらべながら相違点を探していく。子ども達は野中兼山の名前が関係しているものとそうでないものに分類をし始めると予想される。そうした様子を見取りながら、何に関係がある神社なのかを明らかにしていく。そして、神社のある市町村を伝えると子ども達は、これまで春野での兼山の地域開発しか学習してないので、高知市以外の市町村にあることで「どうして、高知市以外にもあるの」という思いが生まれてくると考える。そうした思いを引き出して、共通の土台に乗せていきたい。

2. 子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするための働きかけ

○考えを可視化させ、友だちの考えや比較することで価値に気付かせる。

子どもが友だちの表現に価値を見出すためには、考えを可視化することと比較しながら話し合うことが必要である。そして、その考えに対する教師の問いかけが重要だと考える。よいより考えにたどりつくには、表現された考えの中から教師が視点を絞りこみ、ゆさぶったり、違う側面に気付かせたりする働きかけが必要であると考えます。

3年生 校内の消火設備の配置図の中の設置の工夫を比べる。

3年生では、副読本にある校内の消火設備の配置図の中から設置の工夫を探させる。その工夫がどうしてあるのかを話し合う中で、「どうして置く場所が違うの」と問いかけることで自動的に知らせてくれるものの消防設備や人が扱う消防設備の配置の意味や数の違いに気づかせていきたい。

4年生 野中兼山への評価の変容を話し合う場を設定する。

4年生は、農民が堰の工事で苦勞したことを知る学習で兼山の開発についての評価をさせている。ここでは、農民は頑張ったが、野中兼山が独裁的にふるまい地域の開発した人物として良い評価をする児童は少なかった。本時では、こうした兼山の印象から地域の開発を行ったすばらしい先人としての側面を児童の心に強く刻みたい。そこで、県内における兼山の業績を調べた後に、これまでの評価を表した小黒板を出し、再度評価をさせ、その変容を話し合う場面を設定する。変容をする児童が多いと思われるが、堰づくりの疑似体験をした児童や本山の掟における農民の生活の厳しさが強く心に残っている児童の中には、低い評価のままの児童もいると予測される。そこで「兼山は農民に対してどう思っているのだろうか」と問いかける。すると、児童からは農民を苦しさも知っていたという意見が出されるのではないだろうか。それを切り口にして、兼山の開発に対する思いが分かる資料を提示する。兼山の地域の開発に対する熱い思いを知ることで、すべての児童に兼山がした開発のすばらしさに気づかせるようにしていきたい。

第3.4 学年社会科指導案

(複式研究室)

指導者 沖 卓弥

【3年生】

1. 小単元名

火事をふせぐ

2. 指導観

本小単元は、学習指導要領の第3学年の内容(3)を受けている。火災は、消防署を中心に地域社会、そして各関係機関が協力して計画的に相互に協力し火災を最小限におさえていること、また、それぞれの機関が工夫や努力をして火災の防止に努めていることを理解できることをねらいとしている。

指導に当たっては、火事が起きた時の様子のイラストを読み取り、消防署だけでなく様々な機関が火事を消すために協力していることに気付かせる。そして、火事が起きた時に最前線で働く消防署に着目させ、「消防しょは、どのようにして火事からまちを守っているのだろう。」をいう学習問題を見出させる。ここでは、火事の被害をできるだけ少なくするために、早く消火することに焦点を当てさせて、学習を進めていく。まず、学校で火事が起きたと想定して、消防署→学校と板書し、「早く消すための工夫はどこにありそうか」と問いかける。児童からは、消防署、学校だけでなく、登下校の途中の地域にも工夫があることを予想するだろう。そして、工夫があるといった所から調べたいことを話し合わせ、学習を進めていく。調べたいことの中から消防署の早く出動するための工夫、地域の消防設備の工夫、他の機関との連携などの工夫、校内の消火設備の工夫について学習を進めていく。そして、生命や財産を脅かす火災が消防署を中心に各機関が計画的に連携して取り組んでいることによって、安全なくらしが営まれていることを理解させるようにしていきたい。また、火災について自分達ができることについて考え地域社会の一員として自覚を育てていきたい。

3年生の児童は、スーパーの様々な工夫は、お客さんが満足してもらうことにつながっていることを話し合いで見出し、社会の中には住んでいる人のために様々な工夫があることに気づいている。そこで、本単元でも、町を火災から守るために、各機関の火災を早く消すための工夫を見つけながら学習を進めていくようにしていきたい。

本時は、学校の消防設備の工夫を考える場面である。前時では、児童は学校にある消防設備の役割について学習し校内の消火設備の消防設備の数には意味あることが気づいているまず、副読本にある学校の見取り図を提示し、自動火災報知設備の場所を予想させる。児童の中からは、職員室、自分たちの教室など様々な意見が出されると思われる。予想した場所の理由を聞きながら、「みんなが選んだ場所すべてに置いたらいいんじゃないかな」と問いかける。子ども達は、たくさんあっても意味がないという反応が聞かれるだろう。その様子を見取り、学習課題へとつなげていく。して市の副読本の学校消防設備の配置図の中から設置場所や数の工夫を探させていく。気づいたことを話し合う中で各階の同じところに置いている設備が多いことに気付くと予想される。「同じ場所じゃないといけないの?」と問いかけ、その意味を話し合う中で、校内の消防設備が計画的に設置されていることに気づかせていきたい。

【4年生】

1. 単元名

地いきの発展につくした人びと

2. 指導観

本単元は、学習指導要領の第4学年の内容(4)のAをもとに設定し、地域の発展に尽くした先人の具体的事例や業績から、地域の発展に対する先人の願いや工夫・努力、地域の人々の生活の向上を具体的に調べることで、先人の働きや苦心を捉えることができるようにすることをねらいとしている。本単元では、先人の具体的事例として野中兼山がおこなった利水事業、治水事業、水運事業について扱う。この開発をおこなった野中兼山は、土佐藩の奉行として約30年に渡り、産業の復興や大規模な新田開発、港の整備など土佐藩の基盤を作り上げ、未来を見据え高知県の発展に情熱を注いだ人物である。春野を開発していく時の兼山や工事の様子、そして地域の生活の様子などから、先人の働きと地域の人々の様子とを関連づけることができると考え設定した。

4年生の児童は、社会科の学習に興味関心をもっている児童が多くみられる。自分の考えを図で表して友だちに考えを伝えようとしている姿がよく見られる。複式学級2年目なので、間接指導時自分たちが話し合いを進めることができている。

指導にあたっては、まず現在の春野にある用水路について気づかせる。そして、用水路ができる前と後での春野の様子の違いからだれが何のために用水路を作ったのかについて追究していく。ここでは、単に用水路や堰などを作ったことで地域の人々の生活が向上しただけでなく、調べていく上では当時の歴史的な背景をふまえながら、学習していくことが必要となってくる。例えばその当時の藩の経済や堰や用水路をつくる道具などである。実際に簡易的なもっこで石を運ばせたり、槌で石を砕かせたりするなどの体験も交えながら、当時の人々の様子について、捉えさせていきたい。そして、野中兼山の功績だけでなく、開発に携わった多くの農民への生活の制限や苦勞なども学習し、野中兼山が地域の発展に対しておこなった事業について多角的に考えていくようにさせる。単元の終わりには野中兼山の人物像について考え、野中兼山の藩に対する思いについてそれぞれが捉えることができるようにしていきたい。

本時では、まず兼山を祀る神社の写真を複数枚提示し、気づいたことを話し合わせさせる。子ども達は、神社に野中兼山を連想する文字があることに気付くであろう。そこで、兼山を祀っている神社だということを知らせ、それぞれの神社のある場所を伝える。子ども達は、高知市以外の市町村にどうして神社があるのか疑問を抱くだろう。その様子を見取り学習課題を設定する。課題を解決する場面では、副読本から調べたことを話し合わせる。そして、兼山が県内の様々な場所で、開発をおこなっていることを理解した後、農民の堰の工事の学習の時に、兼山の開発について評価した小黒板を提示し、再度兼山の開発について評価させる。その変容を話し合う中で、兼山の開発に対する思いに迫っていきたい。

【3年生】

3. 目標

火災から地域の安全を守る働きについて、消防署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、資料などで調べたりしてまとめ、消防署などの関係諸機関や地域の人々の働きから考えことを通して、関係機関が地域の人々と協力して、火災の防止に努めていることを理解できるようにする。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 消防施設・消防設備などの配置、緊急時への備えや対応などについて、消防署などの関係機関や関連する施設を見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。 調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して連携して緊急時に対処する体系をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災などの防止に努めていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 消防施設・消防設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目し、問いを見出し、関係機関や地域の人々の諸活動について考え表現している。 連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、関係機関の相互の関係を考えたり、関係機関に従事する人々の活動と地域の人々の生活を関係づけて、従事する人々の働きを考え、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 火災から地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追及し、解決しようとしている。

5. 指導と評価の計画（全11時間 本時8/11）

時	学習内容	評価				
		知	思	態	評価規準	評価方法
1	火事が起きたらどうなる		○		<ul style="list-style-type: none"> 市内の消防署の分布図を読み取り市内に多数ある理由を考え、表現している。 	発言 ノート
2	学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう		◎	○	<ul style="list-style-type: none"> 学校で火事が発生した時の対応を取り上げて学習問題をつくり、表現している。 消防の働きを調べる学習問題について予想し、学習の見通しを立てて主体的に追及しようとしている。 	発言 ノート
3	消防しょについて調べよう。	○			<ul style="list-style-type: none"> 消防署を訪ね、消防自動車や設備などを調べたり、職員の仕事についてインタビューしたりして、必要な情報を集めている。 	発言 ノート
4	地いきの人々の協力	○			<ul style="list-style-type: none"> 地域の消防施設について、設置場所や役割を調べるとともに、消防団など地域の人々は消防署と協力して火災に備えていることを理解している。 	発言 ノート
5	消防しょの1日	○			<ul style="list-style-type: none"> 消防署員の日常的な仕事や、職員の勤務体制について理解している。 	発言 ノート
6	消防しょとさまざまな人のはたらき	○			<ul style="list-style-type: none"> 119番の通報のしくみを捉え、緊急時における関係機関との連携や協力について理解している。 	発言 ノート
7	学校の消防設備を調べよう	○			<ul style="list-style-type: none"> 学校の消防設備について、校内の見取り図に正確にまとめることができる。 	発言 ノート
8	学校の消防設備の工夫	○			<ul style="list-style-type: none"> 学校の消防設備について、設置場所や役割を考えるとともに、学校は消防計画をつくり火災に備えて 	発言 ノート

9 本 時					いることを理解している。	
10	火事からまちを守るはたらき		○		・火事からまちを守る働きについて、関係機関の連携を中心に関係図にまとめ、大切だと考える内容を標語に表現している。	発言 ノート
11	自分やまちの安全を守るために、わたしたちにできること		○		・地域社会の一員として自分たちにも協力できることや、自分自身の安全を守るために心がけるべきことを選択・判断して表現している。	発言 ノート

【4年生】

3. 目標

地域の発展に尽くした先人の働きについて、考えや工事の工夫に着目して、資料などで調べたりしてまとめ、当時の藩の様子や様々な立場の人達の働きから考えたことを通して、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解できるようにする。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解している。 ・見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的な事例を捉え、先人の働きを考え、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先人の働きについて、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。

5. 指導と評価の計画（全15時間 本時13/13）

時	学 習 内 容	評 価				
		知	思	態	評 価 規 準	評価方法
1	春野町の用水路 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう		○		・春野町の新田開発について問いを見出し、学習問題として表現している。	発言 ノート
2	用水路ができるまで	○			・「用水路ができる前」と「用水路ができた後」の創造図を比べ、当時の人々の暮らしを考え表現している。	発言 ノート
3 ～ 5	見学の計画・見学			○	・春野町の新田開発について予想を話し合い、見通しをもって主体的に追究しようとしている。	発言 ノート 行動
6	野中兼山の考え		○		・資料をもとに野中兼山の春野町の開発事業のねらいを調べ、当時の様子について考え表現している。	発言 ノート
7	八田ぜきの工事		○		・八田堰の工事の様子の想像図を見て疑問に思ったことを話し合い、堰がどのようにつくられたのかを考え表現している。	発言 ノート
8	せきの工事	○			・資料や学芸員の話を通して調べたことをもとに、堰の工事でどこをどのように工夫したのかについて理解している。	発言 ノート

9	用水路の工事・用水路の工夫	○			・資料や学芸員の話を通して調べたことをもとに、用水路の工事でどこをどのように工夫したのかについて理解している。	発言 ノート
10	道具と材料	○			・埋め立て工事の進め方や工事に使われたとされる道具の種類や用途，工事が人力で行われたことについて理解している。	発言 ノート
11	農民の苦勞	○			・工事のために苦しい生活を強いられた農民たちによって，郷土の開発が進められたことを理解している。	発言 ノート
12	開発後の様子	○			・兼山の開発で新川のように新しく町が誕生したこと等を知り，現在の春野町の人々の発展につながったことを理解している。	発言 ノート
13 本 時	野中兼山の開発		○		・兼山が開発した地域を調べ，兼山の開発事業への思いについて，自分の考えを表現している。	発言 ノート

6. 本時の指導（3年生）

(1) 目標

- ・学校の消防設備について設置場所や数を予想し，その役割について理解することができる。

(2) 評価規準

- 【知】・学校の消防設備について，設置場所や役割を理解している。

6. 本時の指導（4年生）

(1) 目標

- ・高知県内での野中兼山の開発した場所について調べ，兼山の開発について自分の考えを表現する。

(2) 評価規準

- 【思】・兼山が開発した地域を調べ，兼山の開発事業への思いについて自分の考えを表現している。

(3) 展開 ■直接 □間接

○教師の働きかけ ●評価	3年の学習活動	4年の学習活動	○教師の働きかけ ●評価
<p>○消防設備の数の違いについて想起させる。</p> <p>○副読本の学校の配置図を掲示する。</p>	<p>1. 課題をつかむ 児童火災報知設備を置く場所に。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動火災報知設備は職員室においたらいい。 ・自分の教室に置く。 	<p>1. 課題をつかむ</p> <p>(1) 複数の神社の写真から気づくことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべて神社の写真だ。 ・野中の文字が見える。 ・兼山に関係がある神社のかな。 	<p>○兼山を祀る神社の写真を数枚提示する。</p>
<p>学校の消防設備は、どのようなところにどれだけ置かれているのだろう。</p>		<p>(2) 神社のある場所を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春野にあるのは、堰や用水路に農民が感謝したからだ。 ・なぜ、大月町にもあるのだろう。 	<p>○兼山を祀る神社のある場所を伝える。</p> <p>○高知県の市町村のマップを掲示し、神社のあるところに、印をつける。</p>
<p>○消防設備の数と位置に着目させていく。</p>	<p>2. 課題を考える</p> <p>(1) 副読本の消火設備の配置図を調べる。</p>	<p>様々な市町村に兼山に関係する神社があるのはどうしてだろう。</p>	
<p>○防火扉の他の消火設備にも目を向けさせる。</p> <p>○各階、同じように、消防設備が配置されていることに気づかない時には、各階の消防設備の数に着目させ、考えさせる。</p>	<p>(2) 消火設備が記入された学校の配置図から気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館は消火器の数が多い。 ・消火栓も消火器も各階の同じ場所にある。 ・防災扉も同じ場所にあるよ。 	<p>2. 課題を考える</p> <p>(1) 副読本から調べる。</p> <p>(2) 調べたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兼山は、いろいろなところを開発して感謝されたのではないかな。 ・兼山は、港もつくっているから、大月町の人が感謝したから。 	<p>○教科書の根拠になるところに線を引かせる。</p> <p>○高知県の市町村のマップに兼山が開発したところに印を付けさせる。</p>
<p>○人が使うもの消火設備と備え付けの消火設備についての違いについて考えさせる。</p>	<p>3. 課題を深める</p> <p>なぜ、各階で同じように消防の設備が配置されているかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこでも、火事を消すことができるため。 ・消す人に分かり易くするため。 ・人が使うものは数が少ない。 	<p>3. 課題を深める</p> <p>(1) 自分の兼山に対するイメージの変容を数直線に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い評価になったよ。 ・兼山は農民に対してひどいことをしたから評価は変わらないよ。 	<p>○これまでの兼山の開発に対する評価をした小黒板を提示する。</p> <p>○変容した理由を短冊に書かせる。</p> <p>○兼山の開発に関わるエピソードから兼山の地域の開発に対する思いを考えさせる。</p>
<p>●学校の消防設備について、設置場所や役割を理解している。【知】</p>	<p>4. 学習をまとめる</p> <p>学校の消火設備はどこで火事がおきても消火できるように数や置く場所工夫されている。</p>	<p>(2) 変容した理由から兼山の地域の開発に対する思いを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなところを開発して土佐藩を豊かにしたかった。 ・高知県全体の人が豊かになってほしい。 	<p>●兼山が開発した地域を調べ、兼山の開発事業への思いについて自分の考えを表現している。【思】</p>
<p>○次時に附属小学校の消火設備も同じような配置になっているのか確かめることを告げる。</p>	<p>5. 学習をふりかえる</p>	<p>4. 学習をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の様々なところに堰や用水路や港をつくって、人々が感謝をしたから。 	
		<p>5. 学習をふりかえる。</p>	